

令和2年度医療情報の理解促進に関する研修会のテーマについて

1 概要

都民が医療を受けるに当たり、主体的に選択・判断するための基盤となる医療情報の正しい理解を進め、また、患者（都民）と医療従事者のより良い関係の構築を図るため、医療に関する基本的な知識や関係する制度、適切な受診方法等について説明・助言を行い、医療に関する理解を促進する役割を担う人材を養成する。

2 開催日時 令和3年 1月～3月頃を予定

3 研修会(案)

(1) 適切な医療の提供と患者とのかかわり方～医療メディエーションを通して～

患者さんと向き合う際、医療者には患者さんの意思を尊重し、適切な医療を提供することが求められる。患者さんと医療者が向き合う場を設定し、対話を促進することで、関係を構築しながら、患者さんに寄り添う医療を提供するにはどのように対応すればよいか、学んでいく内容とする。

(2) 患者のアドボカシーの実現～医療メディエーターとしてトラブルを未然に防ぐために～

アドボカシーとは、患者さんが自身の権利を守るための自己決定ができるよう支援することである。医療者は、患者さんのアドボカシーを実現するために、適切な医療情報（治療の選択肢）を提示したうえで、患者さんが医療情報を理解するための支援を行うことが求められる。患者参画の医療を充実させるために、患者さんが意見や希望を言える環境の作り方や意見の食い違いが起きた時の問題解決方法について、事例を通して学んでいく内容とする。

(参考：平成27～令和元年度開催実績)

	開催日時	内容	講師	参加人数
27年度	①11月25日(水) 15時～17時	■患者・家族との対話の進め方～トラブルにならないために～ ○医療メディエーションを活用したコミュニケーションスキル	全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 院長補佐 荒神 裕之 氏	134名 (定員120名)
		■患者とのコミュニケーション術 ○わかりやすい説明の仕方～患者の立場から～		
28年度	2月15日(水) 15時～17時	■患者・家族とのトラブルを防ぐ ○円滑なコミュニケーション	早稲田大学大学院法務研究科教授 和田 仁孝 氏	262名 (定員250名)
29年度	2月14日(水) 15時～17時	■人生の最終段階における医療とケアのあり方 ○本人・家族とともに考える意思決定	東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部診療部長 三浦 靖彦 氏	120名 (定員120名)
30年度	2月8日(金) 15時～17時	■ACP(アドバンス・ケア・プランニング)のすすめ方 ○その人らしく意思決定するために	東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部診療部長 三浦 靖彦 氏	118名 (定員100名)
元年度	2月13日(木) 15時～17時	■ヘルスリテラシー向上のために医療従事者ができること ○適切な情報提供のあり方を考える	聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授 中山和弘 氏	121名 (定員250名)